

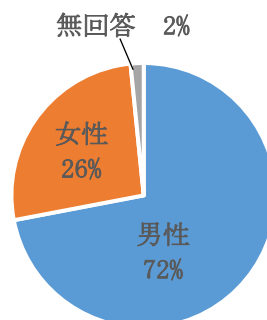
令和6年度蒲郡市市民総ぐるみ防災訓練【塩津地区】アンケート結果

1 訓練参加者数

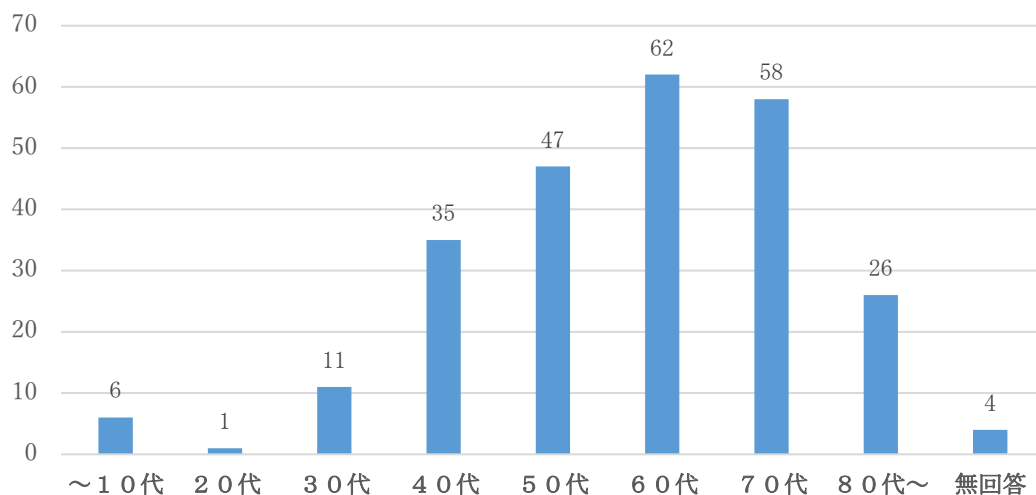
約370人（塩津地区、関係機関、職員、医療救護所訓練含む）

2 アンケート回答者数 250人（男性180人、女性66人、無回答4人）

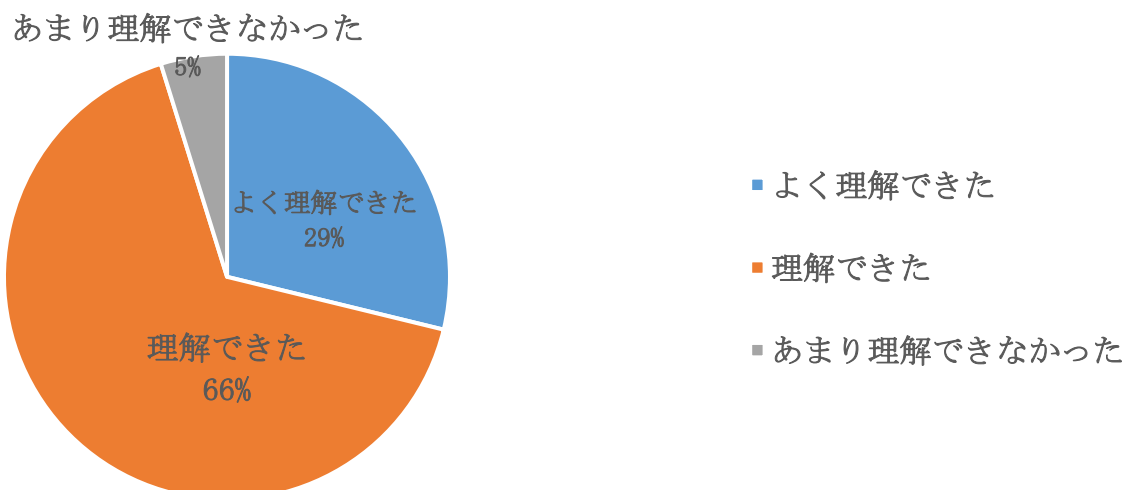
- （1）柏原町 11人（男性10人、無回答1人）
- （2）川東区 39人（男性32人、女性6人、無回答1人）
- （3）竹谷町 48人（男性31人、女性16人、無回答1人）
- （4）竹谷町区 64人（男性44人、女性20人）
- （5）西迫町 12人（男性8人、女性4人）
- （6）拾石町 61人（男性44人、女性16人、無回答1人）
- （7）鹿島町 13人（男性10人、女性3人）
- （8）その他 2人（男性1人、女性1人）



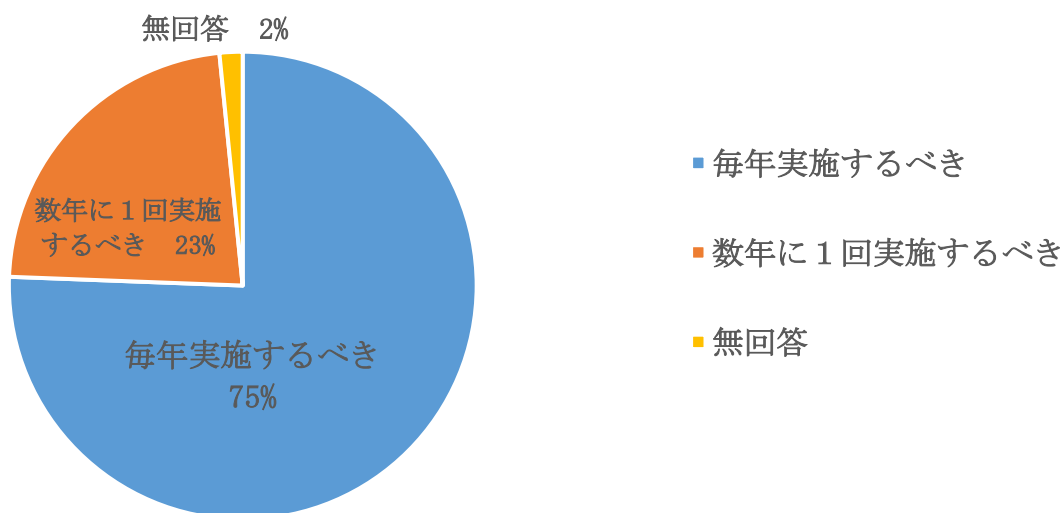
3 年齢について



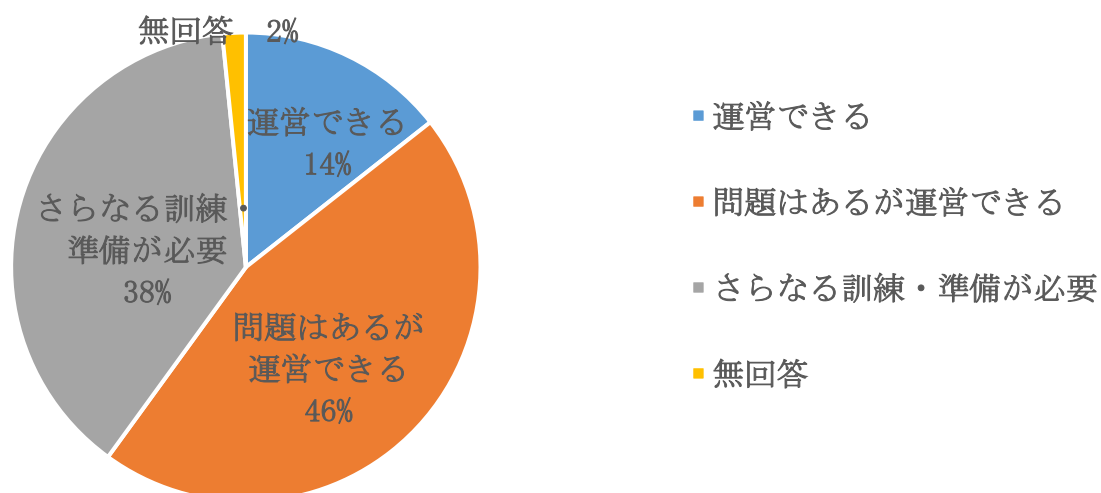
4 防災訓練について



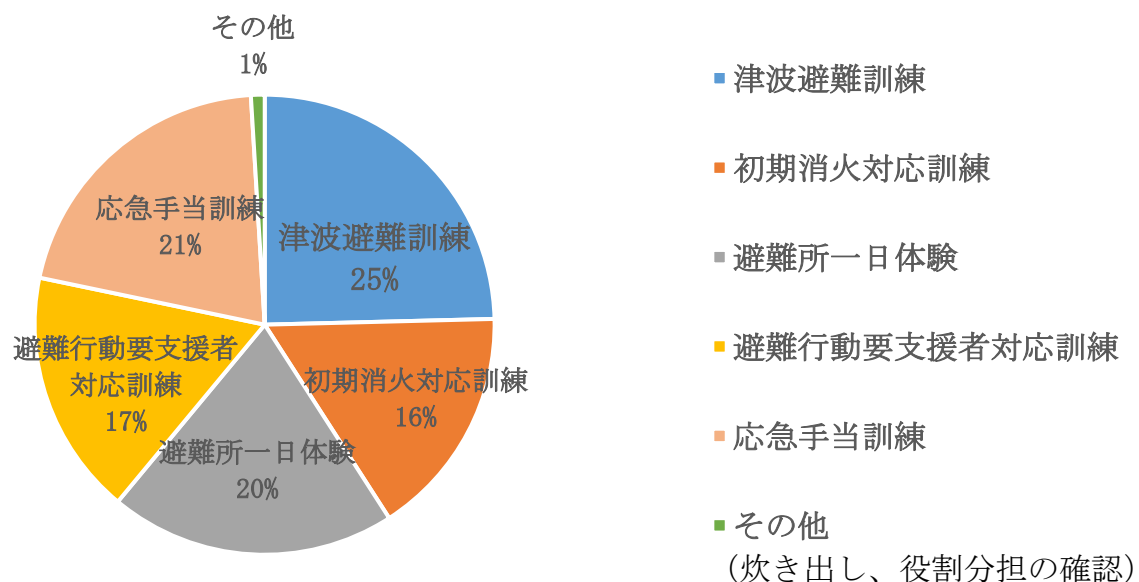
5 防災訓練の実施について



6 災害が発生した場合において避難所を地域主体で運営できると思いますか

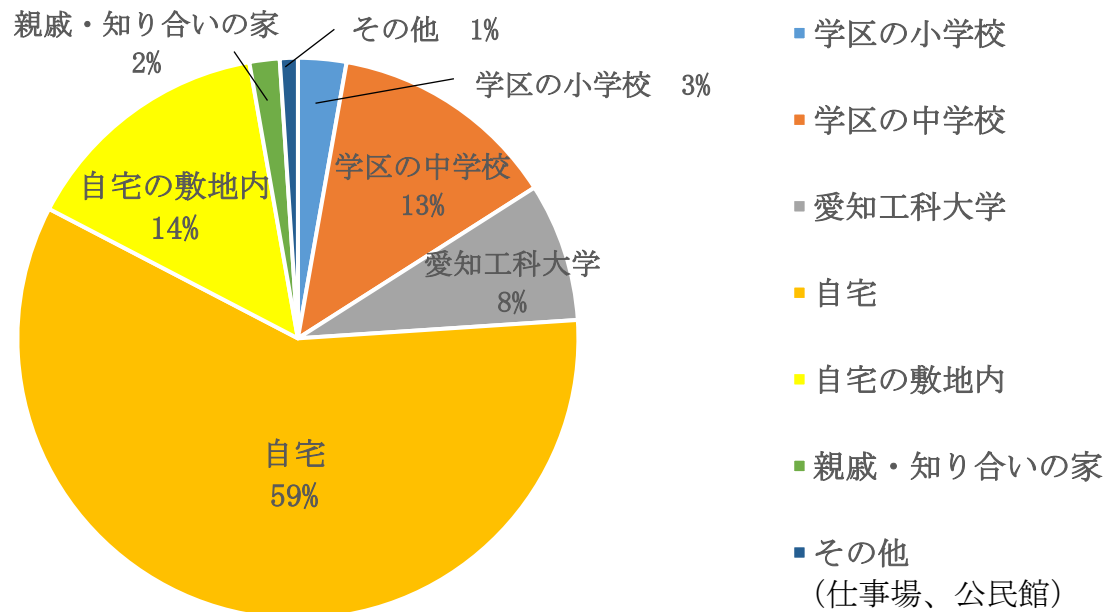


7 地域の防災力を向上させるために実施してみたい訓練等（複数回答）

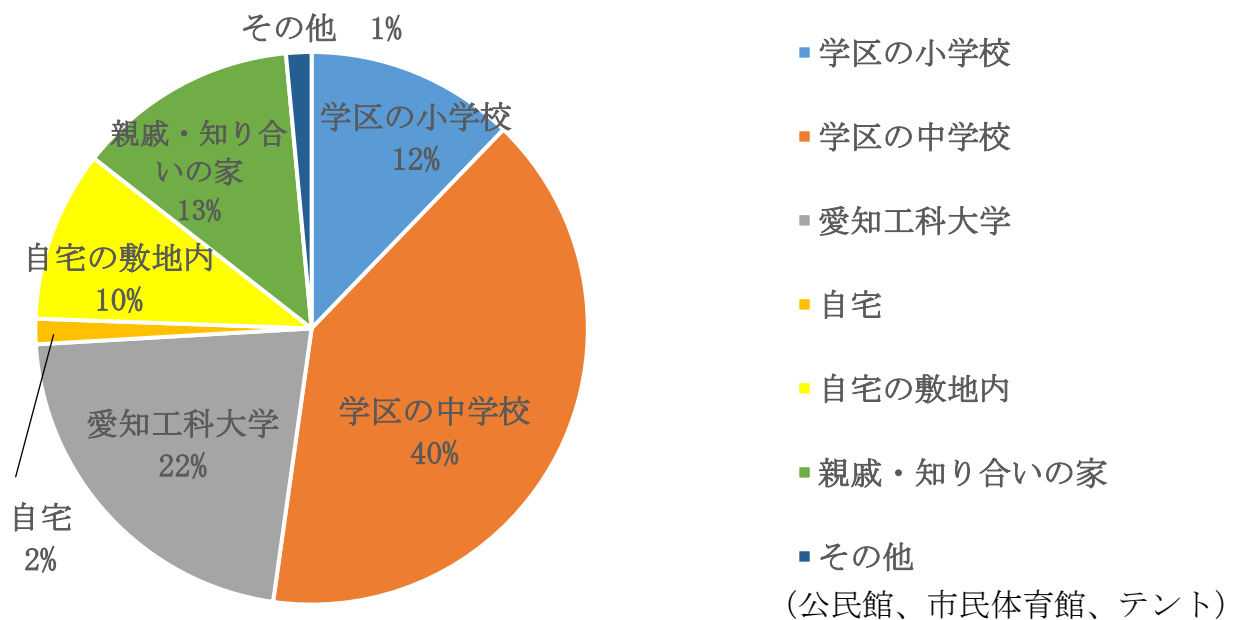


8 南海トラフ地震など巨大地震が発生した場合、どこで避難生活をしますか。(複数回答)

(1) 自宅が被災していない場合

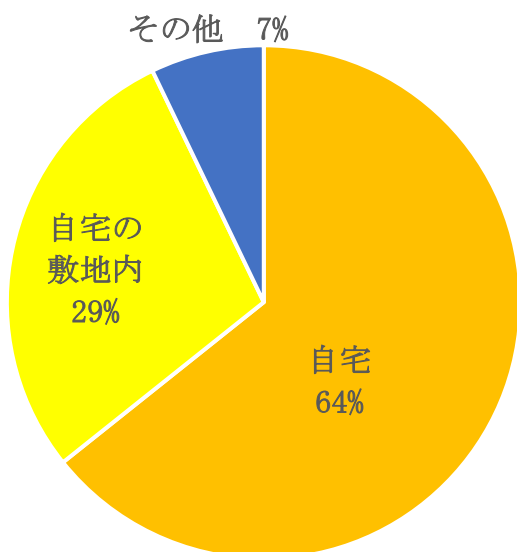


(2) 自宅が被災した場合

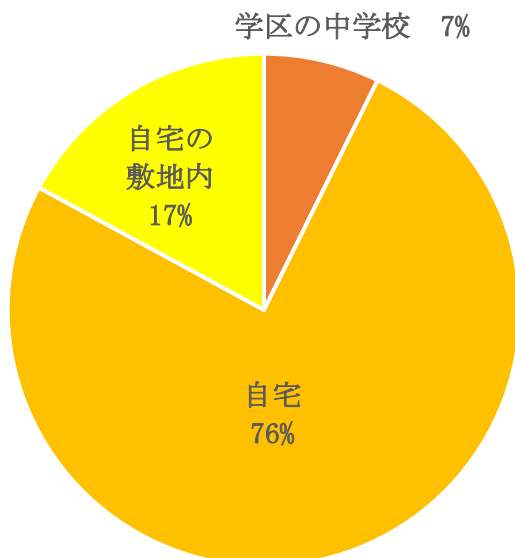


(3) 自宅が被災していない場合※各地区

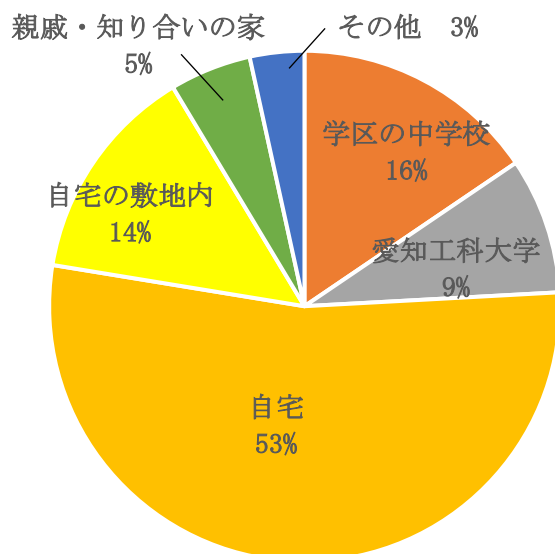
柏原町



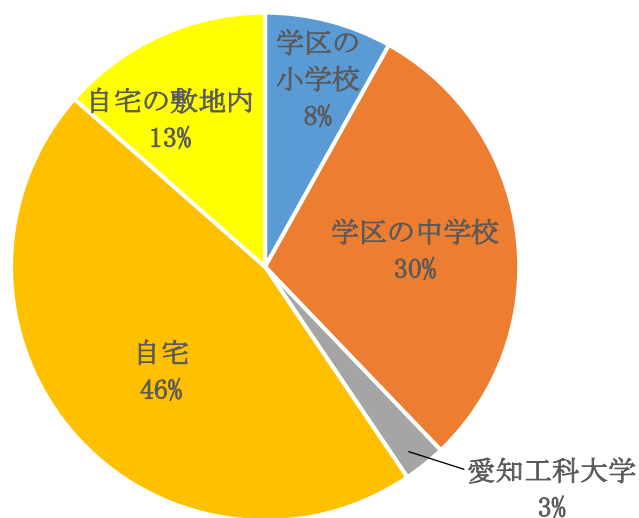
川東区



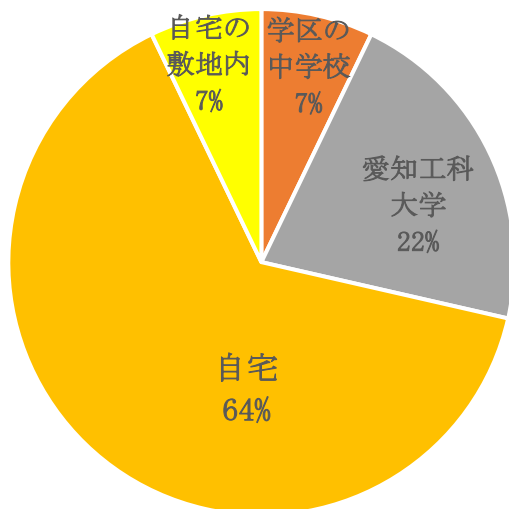
竹谷町



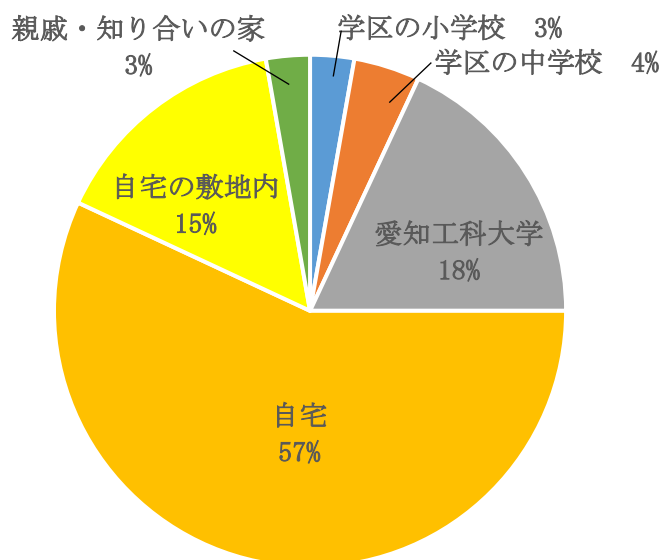
竹谷町区

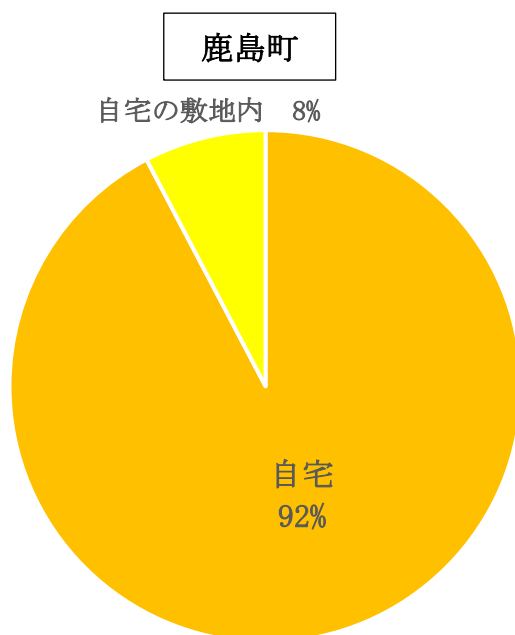


西迫町

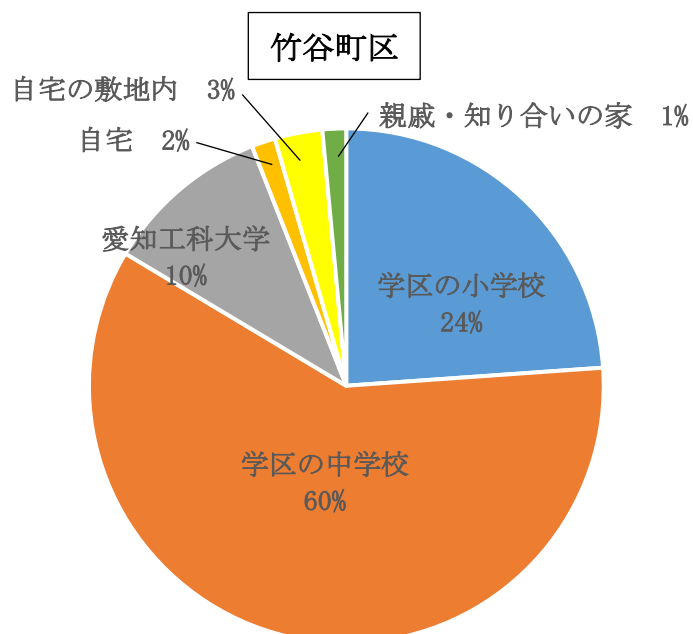
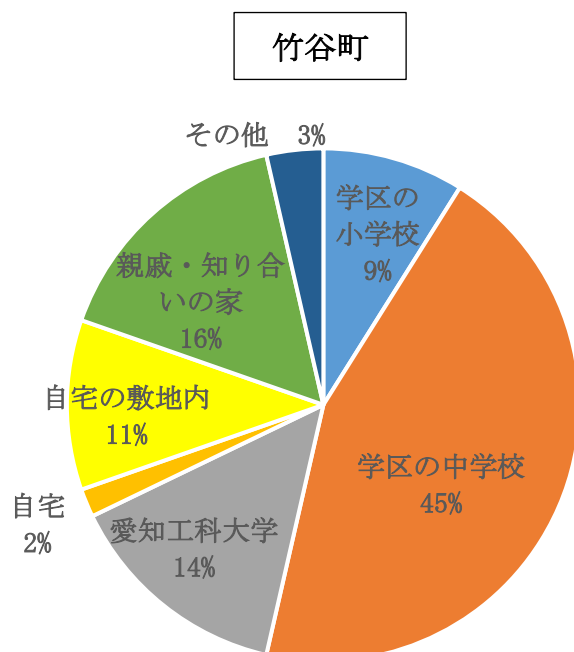
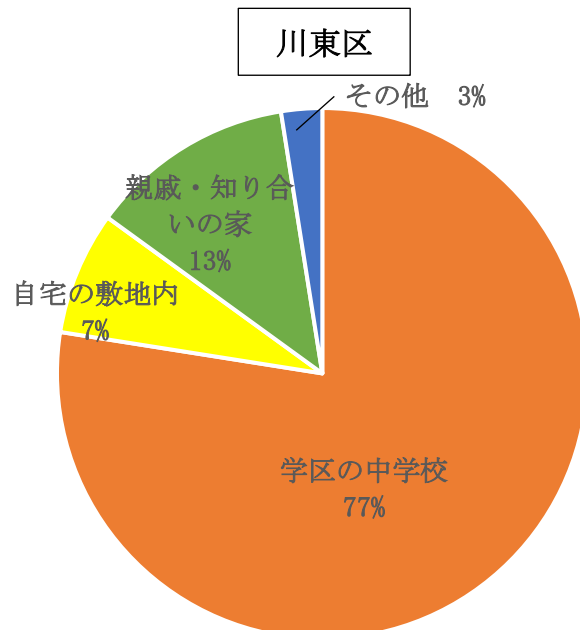
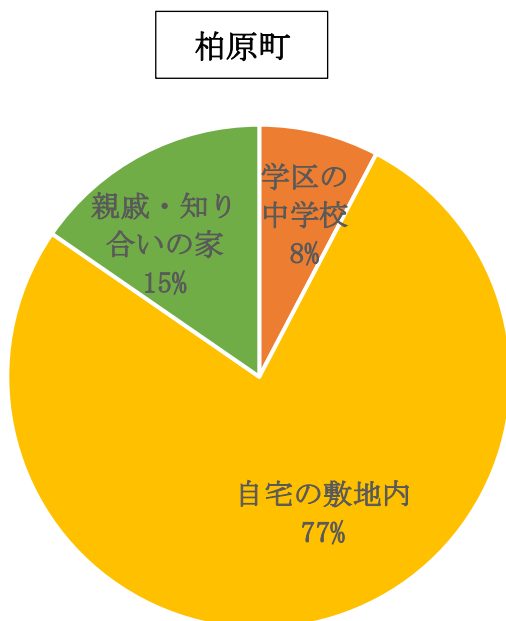


拾石町

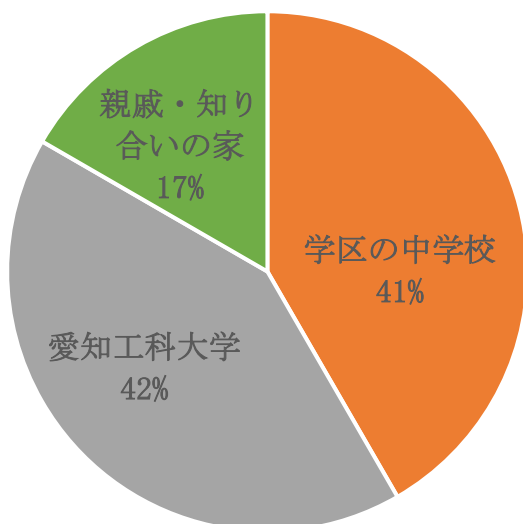




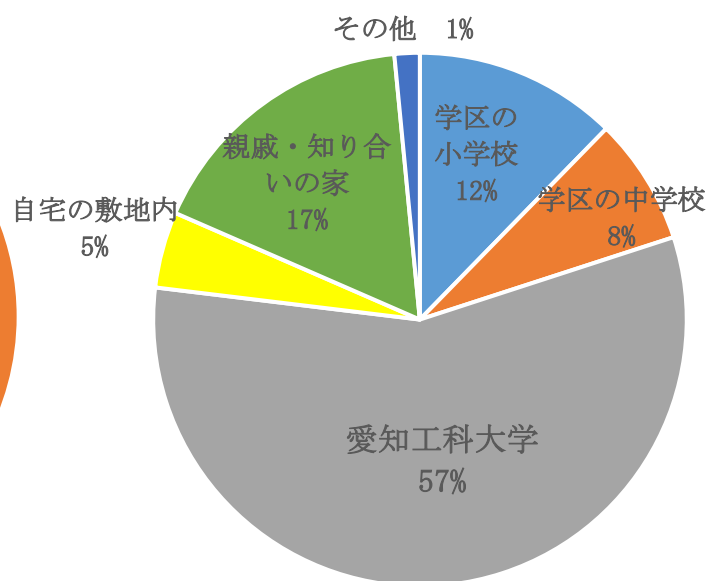
(4) 自宅が被災した場合※各地区



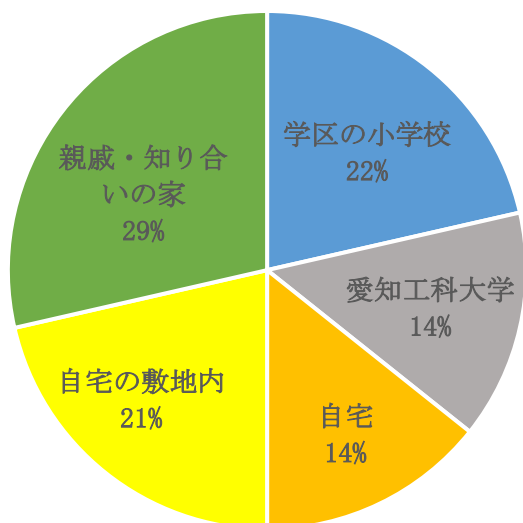
西迫町



拾石町

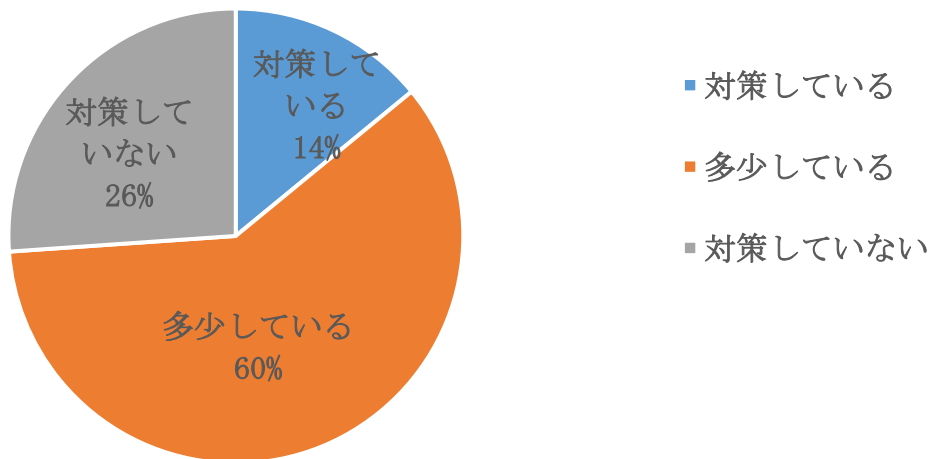


鹿島町



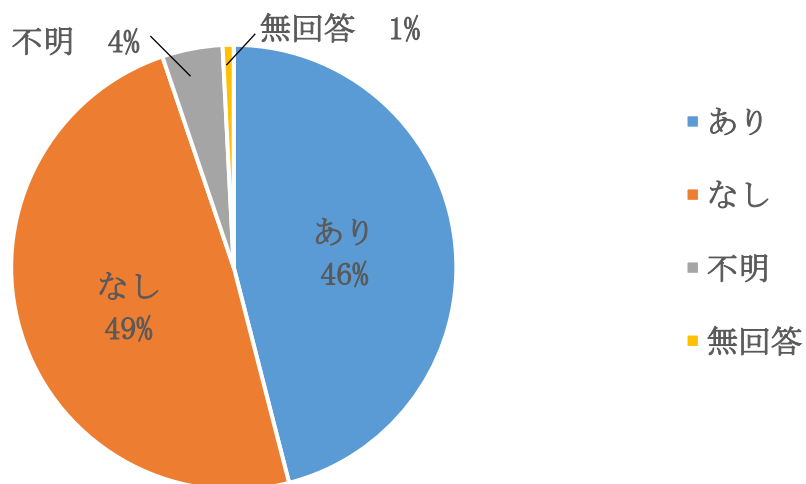
9 地震に対する安全対策について

(1) 家具の転倒防止対策

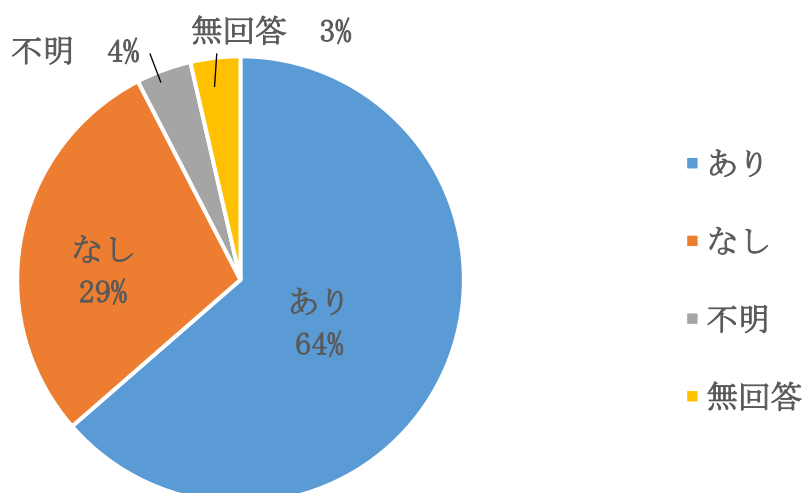


(2) 火災対策

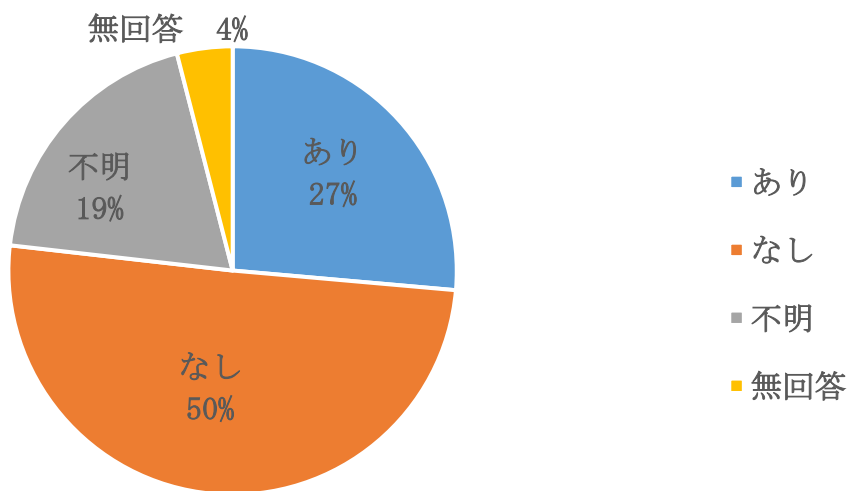
ア 自宅に消火器の設置



イ 住宅用火災警報器の設置

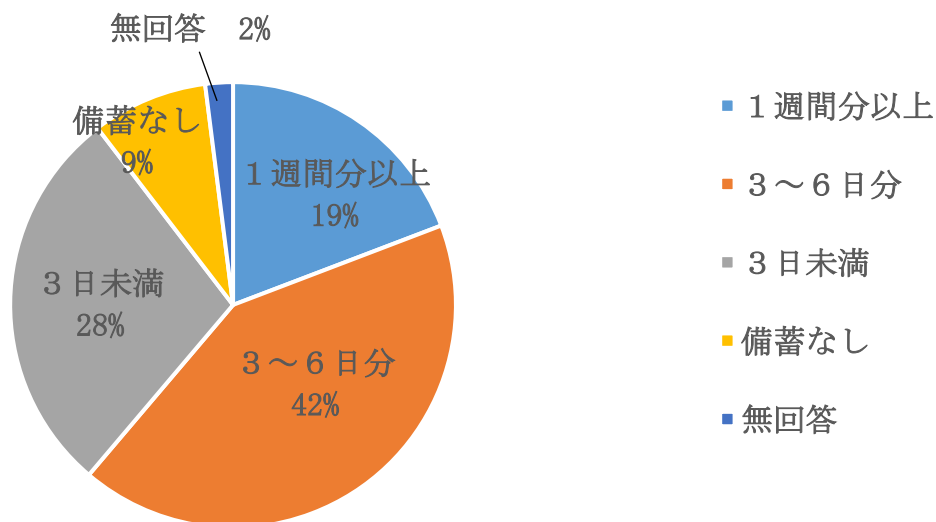


ウ 感震ブレーカーの設置

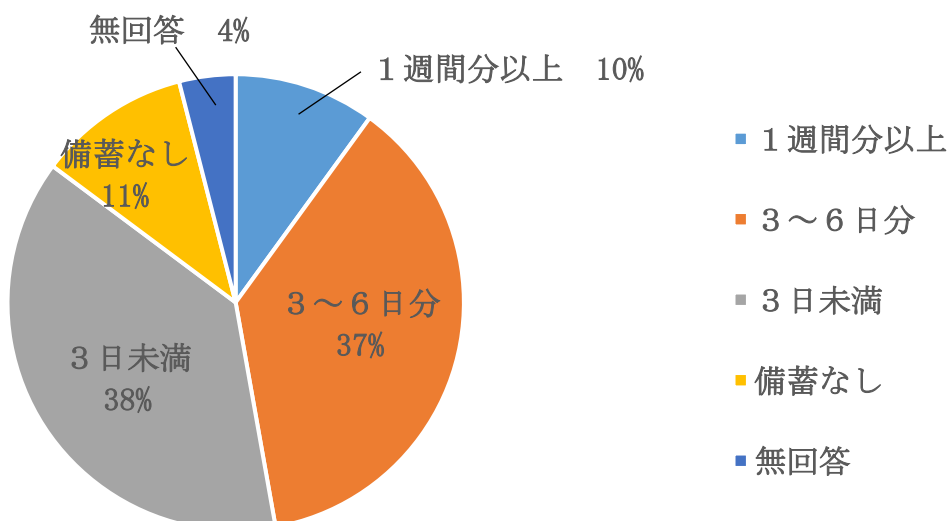


10 家庭での飲料水・食料の備蓄状況について

ア 飲料水



イ 食料



1 1 訓練についての意見等

【良かった点】

- ・いろいろ体験できて良かった。
- ・実際に体験できたことが良いと思います。
- ・起震車で地震の体験できたのはよかった（12件）
「地震体験車に乗り、震度6強の怖さを知れた」
「地震体験車は良かった。テーブルが固定されていなかったらどうなっていただろう」
「震度6弱の体験ができたことが良かった」
- ・避難所運営の勉強会が良かったです。
- ・実際の災害時を想定していて、いろんなところに配慮が行き届いていた。
- ・ペットについての対応で一応の問題が出てくることが良く分かった。
- ・年々変わる設備が知れてよかった。特にトイレなど。
- ・いろいろな備品等を見て触れたことがよかった。
- ・皆さん協力的でした。
- ・防災器具を見て現実味を感じた。
- ・テントの中が広かった（8歳）
- ・パーテーション、ベッドなど実際に触れてよかった。
- ・テントの組み立て等体験できてよかった。無線をやれる時間があつたらよかった。
- ・やっぱり自宅がいい、改めて実感。
- ・いろいろな情報や体験が今後役立つと思える。
- ・備蓄について、工科大の収容人数、トイレの使い方など知れてよかった。
- ・このままでよい。
- ・全体的によかったです。

【意見】

- ・自主防災会単位訓練や具体的な役割など平時の取り組みなどを検討するべき。
- ・被災したらまずは、避難所→安否確認して帰宅なのか、自宅が無事であれば行く必要がないのかよくわかりませんでした。
- ・避難所内での初動における基本的な知識を広めるべきだと感じました。
- ・一人ひとり意識や備えの向上が必要。
- ・実際に被災した時の行動、準備が重要
- ・消火器の使い方、実践もあるとよい。
- ・ペットの避難場所がもっと多く集まった場合、どうしていいのか不安を感じた。
- ・地域で手助けが必要な方がいるのか、調べる方法を検討したい。
- ・トイレの数量がもっと多く必要です。
- ・地区の役割は年度当初に研修すべき。
- ・訓練はよかったが、流れは悪い感じがした。
- ・地区で行動するのにみんなばらばらだった。（10代）
- ・マイクの使い方に工夫をお願いしたい。反響が大きく判別しにくかった。（5件）
- ・スケジュール等配布されるとよいと思いました。
- ・進行が悪い。
- ・移動、次の訓練の案内が不足していた。

- ・誘導に工夫してほしかった。
- ・段取りが悪い。
- ・案内、誘導が不適切。わかりにくかった。
- ・もう少し詳しく説明してほしかった。
- ・待ち時間が長い。もっと小さい地区ごとに実施したほうが効率がよいと感じました。
- ・受付がわかりにくい。地区の移動でどこを回っているのかわからない。
- ・おいしい防災食を提案してほしい。
- ・地震体験車に VR を導入してほしい。

1 2 アンケート結果からの考察

(1) 参加者について

アンケート回答者 250 人の結果より、男性が全体の 72%、女性が 27%であった。自主防災会役員の女性の割合が低いため、男性の参加者が多数を占めていた。避難所運営における多様な考え方が重要という観点から、各自主防災会において女性役員の啓発や、地域団体との連携、また出前講座等においても市民に広く周知する必要がある。

また、年齢は 60 代前後の割合が高く、一般の方の参加を促進するため、各地域での回覧板や小中学校にチラシを配布した結果、想定を上回る参加者であった。しかし、子供の割合が約 3%程度であったため、周知方法の検討が課題である。

(2) 防災訓練について

防災訓練に対する参加者の理解度は、95%が「理解できた」「よく理解できた」と回答。各自主防災会長による参加者に対する説明が行き届いた結果であると考えられる。

また、防災訓練の実施については、75%が「毎年訓練を実施すべき」と回答。23%は「数年に 1 回訓練を実施すべき」と回答しており、避難所の運営については、60%が「運営できる」「問題はあるが運営できる」と回答。一方、38%が地域主体で避難所を運営できるためには、さらなる訓練準備が必要と回答しており、訓練に対する関心の高さが伺える。

さらに、地域の防災力を向上させるために実施してみたい訓練については、津波避難訓練が 25%、応急手当訓練が 21%、避難所 1 日体験が 20%、避難行動要支援者対応訓練が 17%、初期消火対応訓練が 16%という結果となった。

(3) 災害時の避難先について

災害時の避難先については、自宅が無事であれば 59%が自宅と回答しており、24%が学区の小中学校または大学に避難すると回答。一方、在宅が被災した場合は、学区の小中学校が 12%、学区の中学校が 40%、愛知工科大学は 22%という結果となった。また、各地区によって避難先も違うため、塩津地区全体で避難所運営における連携や協力体制が必要であると考えられる。

(4) 家庭での飲料水・食料の備蓄状況について

飲料水、食料の備蓄状況については、3 日以上備蓄していると回答した割合が 61%（飲料水）、47%（食料）となっており、6 月に実施した自主防災会リーダー研修のアンケート結果に比べ 13%（飲料水 48%）、9%（食料 38%）とそれぞれ増加して

いる。

これは、南海トラフ地震臨時情報が発表された影響も考えられるが、災害に対する備えの重要性を今後も継続して啓発していく必要がある。

1.3 検討事項について

(1) 避難所開設訓練について

塩津中学校、塩津小学校、愛知工科大学において8時より避難所開設訓練を実施した。しかし、訓練時間に限りがあるため、塩津小学校、愛知工科大学では訓練内容が限られてしまった。

今後は、各避難所で役員に対して避難所開設訓練の検討も必要であると考えられる。

(2) 受付及び、避難者の誘導について

アンケートの意見にもあったが、多数の参加者が来たとき、地区ごとに誘導、案内に多少の混乱が生じた。また、塩津中学校は体育館が広く音が反響しやすいため全体に周知する難しさや工夫が今後の課題となった。しかし、各自主防災会の会長をはじめ、役員間で協力して各地区の参加者を取りまとめたため、想定以上の混乱は生じなかった。

たくさんの避難者をコントロールするためには、各会長はじめ、役員間の連携が重要であると考えられる。

(3) 訓練について

ア 自主防災会

役員に対し事前説明をしていない中で訓練を実施したが、わからないながらも役員間でコミュニケーションをとり臨機応変に対応できていた。しかし、災害時は今回の訓練のようにはいかない部分もあるため、平常時から、自主防災会単位での訓練や具体的な役割などの取り組みを見直し、検討していくことが重要であると考えられる。

イ 一般参加者の訓練について

多くの参加者を会長（役員）に誘導してもらい3ブースに分かれ訓練を実施した。参加者からの意見からもおおむね好評ではあったが、参加者が多い地区では誘導や案内が上手くいかなかったところも見受けられた。災害初動期においても同様な混乱は生じると考えられるため、今回の訓練を今後に生かせるように各地域と市で連携しながら実効性のある訓練を検討する必要があると考えられる。

(4) 会長、隊長の役割について

各会長が訓練を理解した上で当日の訓練を実施できたため、リーダーシップがいかに発揮されていた。

しかし、実災害においては訓練のようにはいかない状況が考えられるため、各自主防災会長の負担を軽減するためにも、今後も訓練を継続し、会長不在時でも対応できる体制が必要である。また、自主防災会、施設管理者、避難所開設担当職員の役割分担も考慮した訓練計画も検討する必要がある。